

「平成 28 年度版 愛知の観光振興施策の実施状況（平成 27 年度年次報告書）」の概要

愛知県観光振興基本条例第 9 条第 6 項の規定に基づき、愛知県観光振興基本計画（平成 22 年度～平成 27 年度）に定められた観光振興に関する施策の実施状況について、県議会に報告するとともに、公表を行う。

第 1 愛知の観光の現状

計画最終年度（平成 27 年度）の目標として掲げた 5 つの指標に対する達成状況は、下表のとおりであった。

	指 標	目 標 値 (平成 27 年)	計画当初	平成 26 年度 年次報告	現 況
1 観光旅行者の満足度の向上	観光旅行者の満足度 【非常に満足】	25%	16.3% (平成 21 年)	19.6% (平成 26 年)	19.5% (平成 27 年)
2 観光交流人口の拡大 (注)	(1)延べ宿泊者数	1,500 万人	1,048 万人 (平成 20 年)	1,341 万人 (平成 26 年)	1,460 万人 (平成 27 年)
	(2)うち東アジア 4 か国・地域（中、台、韓、香）からの延べ宿泊者数	150 万人	49 万人 (平成 20 年)	81 万人 (平成 26 年)	153 万人 (平成 27 年)
3 観光と地域社会の発展	(1) (経済的効果) 観光消費額	1 兆円	5,300 億円 (平成 20 年)	7,270 億円 (平成 26 年)	7,813 億円 (平成 27 年)
	(2) (社会的効果) 観光ボランティアガイド数	3,000 人	2,202 人 (平成 20 年 1 月)	2,020 人 (平成 27 年 1 月)	2,384 人 (平成 28 年 1 月)

(注) 従業者数 10 人以上の施設を対象とした、延べ宿泊者数調査の結果を利用している。

第2 計画策定後及び平成27年度の主要な観光振興施策の実施状況（主なもの）

（1）東アジアからの誘客推進と受入体制の充実

計画策定以後、PR・プロモーションや多言語での情報発信、受入体制の充実に取り組んできた。特に平成27年度は、観光局を新設し、補正予算を組むなどして情報発信の取組を強化したほか、国の交付金を活用して無料Wi-Fiの整備促進等を図った。

（2）イベント・コンベンションの誘致推進

この分野は、大きく分けて3つの取組を進めてきた。まず、MICEについては、名古屋市や名古屋大学など、この地域でMICEに関わる幅広いステークホルダーと共に「愛知・名古屋MICE推進協議会」を設置し、地域一丸となってMICEを推進する枠組みを構築した。協議会の設置以後、国際会議の誘致や受入体制の強化について、連携した取組を進めることができるようになった。また、スポーツ大会については、平成27年度に振興部にスポーツ振興課を設置し、「ラグビーワールドカップ2019」や「FIFAフットサルワールドカップ2020」の招致に取り組んだ。このほか、技能五輪全国大会・全国アビリンピック等、大規模なイベントも開催した。

（3）「産業観光」と「武将観光」の推進

産業観光については、近隣県と連携して施策を実施するスタイルが定着し、特に平成27年度は産業観光施設間の周遊を一層促進する「産業観光バスツアー」を実施して、参加者からも一定の評価を得ることができた。また、武将観光については、「あいち戦国姫隊」や「徳川家康と服部半蔵忍者隊」を結成し、市町村が実施する武将関連イベント等でパフォーマンスを披露することで、県域全体での「武将のふるさと愛知」の機運醸成につなげてきたほか、全国への発信力も強くなり、来県の動機付けに効果があった。

第3 平成28年度の主要な観光振興施策（主なもの）

（1）戦略Ⅰ「訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化」

「情報発信の充実・強化」を重点プロジェクトとして掲げ、具体的に、「海外観光説明会・商談会開催」と「海外プロモーション実施」の2つの施策を実施していくこととしている。これを受け、今年度は、広東省や韓国、台湾等で観光説明会や交流会を開催するなど、昨年度に引き続き、こちらから打って出ていく取組を進めている。また、アジア5か国・地域の旅行会社・メディアを本県に招請し、観光説明会や県内観光事業者との商談会・交流会を開催する準備も進めているところである。

（2）戦略Ⅱ「観光資源の充実とブランド化の推進」

武将観光において、昨年度に引き続き、「徳川家康と服部半蔵忍者隊」による「武将のふるさと愛知」の発信を行っている。今年度からは、新たに名古屋城と中部国際空港に活動の拠点を設け、演武やおもてなしを実施しているほか、夏には名古屋城で「忍者学校」を開設するなどしたことで、外国人を含む来県客や県民にも「武将のふるさと愛知」の訴求が図られてきている。